

【KCI ギャラリー】

衣服を「研究する」とは？

4 組のリサーチャーが実践する、多様なファッションリサーチを紹介

「ファッションリサーチャー -ズ：衣服と社会をともに考える、四つのプラクティス」展
を開催

KCI ギャラリーでは、2026 年 10 月 5 日（月）より
「ファッションリサーチャー -ズ：衣服と社会をともに考える、四つのプラクティス」展 を開催します。

衣服を研究する態度と行為は、どのような表現をうむのでしょうか。
本展では、ファッションとの関係を結び直す方法を、それぞれの視座から実践する四組の「リサーチャー」を紹介します。

過去の編み図を手がかりに、衣服の生産を民主的にひらく TALK NONSENSE。着る行為をパフォーマンスとして表現し、衣服が人の身体を通してどう読み替えられるかを探る Seohee Kim（キム・ソヒ）。グラフィックデザインの視点から、衣服の流通と所有に介入する The Goodwiller。高齢者の装いにまつわる語りとイメージを記録する Yutaro Saito。

編む、書く、縫う、着る、描く、刷る、観察する、撮る。ここには、彼らなりの方法で他者と関わりながら、衣服をめぐる問いを深める、多様な「研究方法」があります。それぞれの関心や経験を手がかりに、衣服と社会について、ともに考える人びと。本展では、そのゆるやかな集合を、「ファッションリサーチャー -ズ」と呼びます。

彼らの切実でしなやかな実践には、変化の大きな時代においてファッションを鋭く見つめ直すための、さまざまな手がかりが示されています。その活動を KCI ギャラリーにて紹介いたします。



【本展の見どころ】

1、「ファッションとは何か」をともに考える展覧会

完成した衣服やデザインだけでなく、服をつくる、着る、使う、人から人へ渡すといった行為や関係にも目を向けます。衣服や資料を通して、「ファッションとは何か」を来場者とともに考えます。

2、四組のリサーチャーが示す「ファッションの調べ方」

TALK NONSENSE、Seohee Kim、The Goodwiller、Yutaro Saito の四組を紹介。それぞれが、編む、着る、古着の流れを追う、話を聞きながら撮影するなど、異なる方法でファッションを調べ、考える活動を紹介します。

3、学びを持ち帰る「Study Room」

作品鑑賞だけでなく、資料や制作過程にも触れられる「Study Room」として会場を構成します。一部の編み図などは実際に手に取り、持ち帰ることもできます。展示で得た気づきを、会場の外での新たな発見や行動につなげます。

【ファッションリサーチ - ズ プロフィール】

■TALK NONSENSE (小梶真吾+沖裕希)

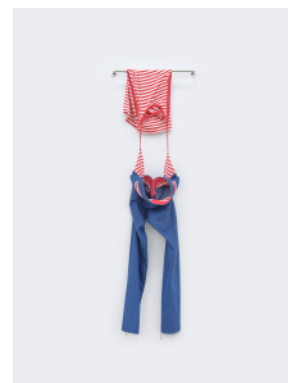
ディレクターの小梶真吾とニットデザイナーの沖裕希によるファッションデザイン／リサーチプラクティス。ほどいたり、編み直したりしながら長く付き合える編み物を通して、衣服を「自分たちで作り、使い、受け継いでいくもの」として考える。昔の編み図や編み物の技術を調べ、それを今の材料や道具でも使えるように読みかえながら、ワークショップや展示を開催。実際に参加者とともに編んだり、編み図を見たり、話したりする場をつくることで、服ができあがるまでの過程に自分たちも関わることでできるファッションのあり方を探っている。



左: TALK NONSENSE / A loosely bound research handout (2025)
右: TALK NONSENSE / [WORKSHOP & COPYROOM] なはれ | ロフトワーク京都 (2025)

■Seohee Kim (キム・ソヒ)

東京とソウルを拠点に活動するファッション研究者・デザイナー。ファッションプロジェクト「SEHIKYO」を主宰し、服を作ったり、直したり、変形させたり、他の人と一緒に制作したりすることで、服を通して「自分らしさ」をつくる方法を探る。今回の展示では、自ら制作した衣服を「着る」という行為をパフォーマンスとして表現。どこに身体を通すのか、どのように動くのかによって、同じ衣服でも異なる姿が現れる。ソヒは、着ることを、完成した衣服をただ身につけるのではなく、身体を通して衣服を読みかえる行為として捉える。



左: Magic loop, 2022 Photo: Euna Choi 右: Wear Wore Worn, 2022 Photo: Studio Salt

■The Goodwiller (斉藤思帆+田岡美紗子)

斉藤思帆と田岡美紗子によるアーティストデュオ。グラフィックデザインの視点から、古着を使って「服の価値とは何か」を考えるアートプロジェクトを始動。古着屋で服を購入し、彼女たち自身をモデルに写真を撮影。そして、その服にオリジナルのタグを付け、再び元の店に戻す。これらの過程はすべて写真やテキストとして記録され、これまで 5 冊の zine 『The Goodwiller』として刊行されてきた。普通の古着が、アート作品としての新しい物語を持ち、再び誰かの手に渡っていく仕組みを作ることで、服の価値や中古品の流通について考えている。



左・右: Photo: The Goodwiller
右: 「ick one」 FXYZ Institute 2025 in KYOTO. VOU / 粋 (京都)、2025 年 11 月 13 日-30 日

■Yutaro Saito

写真家。街で出会った 70~80 代の男性のファッションスナップを撮影し、装いにまつわる話を聞き取り、その様子をさまざまなメディアで記録・発信している。「なぜその服を着ているのか」「いつから着ているのか」と話を聞いていくと、そこには、その人の暮らしや仕事、好み、長年の習慣などが表れる。彼は、写真とことばを通して、服をただ「おしゃれなイメージ」として見るのではなく、その人が生きてきた時間や身体とともに見ることでできるファッションの姿を伝えている。



左・右: Photo: Yutaro Saito

【主な関連イベント】

◆「ファッションキュレーションをめぐる公開研究フォーラム “Fashion Curating with...”」

○ Vol. 1 「Fashion Curating with Research Based Practice」 ※要申込

日 時： 2026 年 11 月 3 日（火・祝）午後 2 時より

会 場： 株式会社ワコール京都ビル 82 会議室

出 演： キム・ソヒ、小梶真吾（TALK NONSENSE）、五十棲亘（KCI）

○ Vol. 2 「Fashion Curating with Graphic Design」 ※要申込

日 時： 2026 年 11 月 20 日（金）午後 2 時より

会 場： 株式会社ワコール京都ビル 83 会議室

出 演： 星加陸、田岡美紗子（The Goodwiller）、五十棲亘（KCI）

※上記イベントすべて 参加費：無料

※定員・申込方法：決定次第、KCI ホームページ (<https://www.kci.or.jp/>) にてご案内します。

◆The Goodwiller Archives

「シルクスクリーンワークショップ presented by The Goodwiller(斉藤思帆+田岡美紗子)」

日 時： 2026 年 10 月 11 日（日）午後 2 時から 5 時

会 場： ユトレヒト（東京都渋谷区神宮前 5-36-6 ケーリーマンション 2C）

参加費： 2000 円

※詳細はユトレヒトのホームページ (<https://utrecht.jp>) をご覧ください。

【基 本 情 報】

展覧会名：ファッションリサーチーズ：

衣服と社会をともに考える、四つのプラクティス

会 期：2026 年 10 月 5 日（月）～ 12 月 25 日（金）

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日：土・日・祝日（ただし、11 月 3 日（火・祝）は開館）

会 場：KCI ギャラリー（京都市下京区七条御所ノ内南町 103 ワコール京都ビル 5 階）

入 場 料：無料

主 催：公益財団法人京都服飾文化研究財団（KCI）

助 成：科学研究費補助金 基盤研究（C）「芸術実践としてのファッションキュレーションーファッション展実践の検証と応用可能性」〔課題

番号：26K03618、研究代表者：五十棲亘〕

このリリースのお問い合わせ先

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

〒600-8864

京都市下京区七条御所ノ内南町 103

ワコール京都ビル 5 階

TEL：075-321-9221

FAX：075-321-9219

E-mail：fukushima@kci.or.jp

担当：福嶋（ふくしま）